

三陸沿岸道路(三陸縦貫自動車道、三陸北縦貫自動車道、八戸久慈自動車道)の整備状況



<三陸沿岸道路の整備状況の内訳>

(H23.4.1時点)

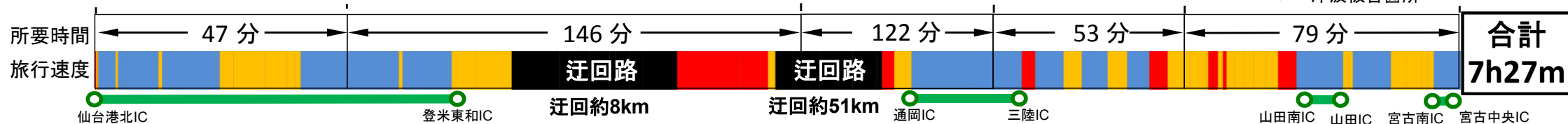
路線名	延長	延長		
		供用中	事業中	調査中
三陸縦貫自動車道	224km	113km (51%)	55km (24%)	56km (25%)
三陸北縦貫自動車道	87km	6km (7%)	9km (10%)	72km (83%)
八戸久慈自動車道	49km	10km (20%)	18km (37%)	21km (43%)
合 計	360km	129km (36%)	82km (23%)	149km (41%)

三陸縦貫自動車道・国道45号による三陸沿岸都市の連絡状況(所要時間)

- 三陸縦貫自動車道の開通率が約5割の現状では、国道45号の迂回・混雑等により、宮古－仙台間に7時間以上を所要
- 三陸縦貫自動車道が全線開通すれば、宮古－仙台間を約3時間で連絡



【現在の整備状況での所要時間 (H23.4.1(金)～28(木)の平日)】



被災地への車の流入により激しい渋滞が発生



国道45号の渋滞状況
(石巻市内)

産経新聞5月5日朝刊

通行止め(上部工流出)による広域迂回が発生



国道45号小泉大橋



国道45号気仙大橋

<凡例>

三陸縦貫道

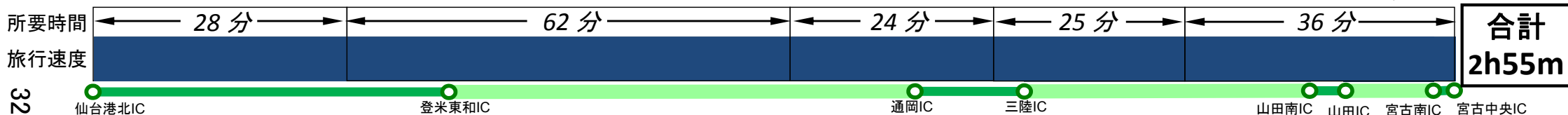
旅行速度*

- 30km/h未満
- 30km/h以上50km/h未満
- 50km/h以上70km/h未満
- 70km/h以上

* 民間プローブデータにより算出

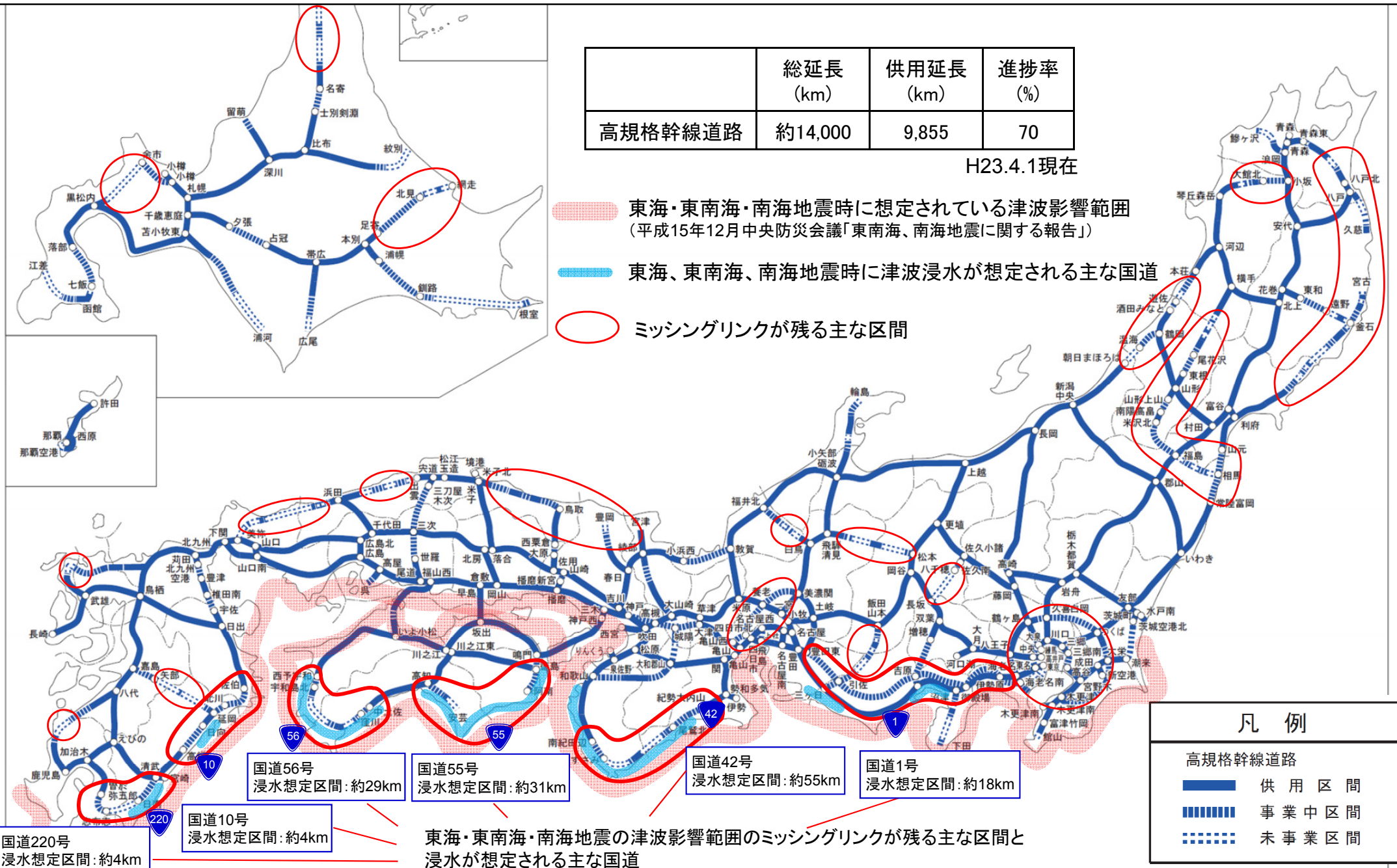
【三陸縦貫自動車道が全線開通していると想定した所要時間※】

※ 高速道路経由は、80km/hで推計



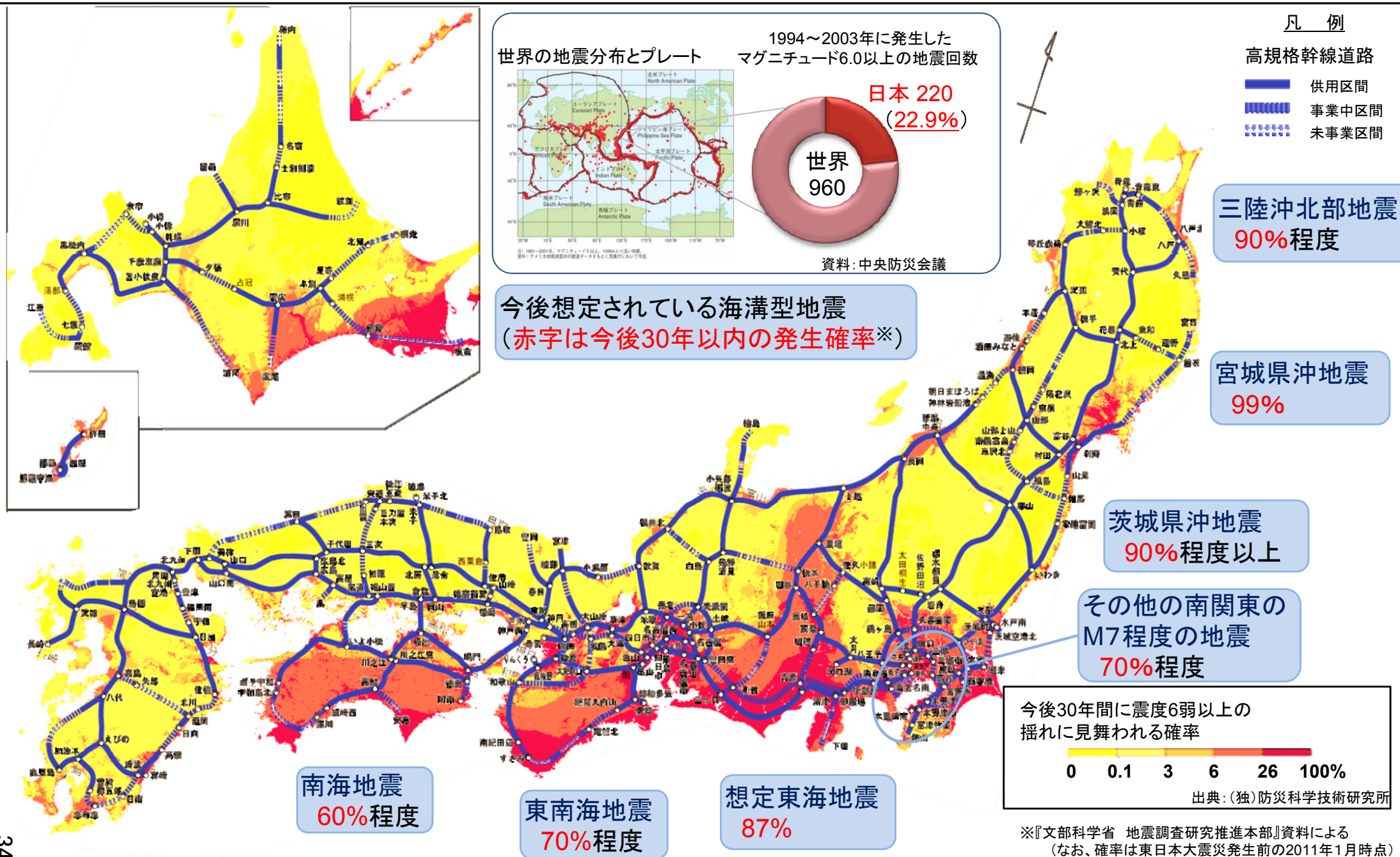
東海、東南海、南海地震の津波影響範囲と高速道路のミッシングリンク

■ 東海・東南海・南海地震時に想定される津波影響範囲には、浸水が想定される国道や高速道路のミッシングリンクが多数存在



地震国・日本と高速道路ネットワーク

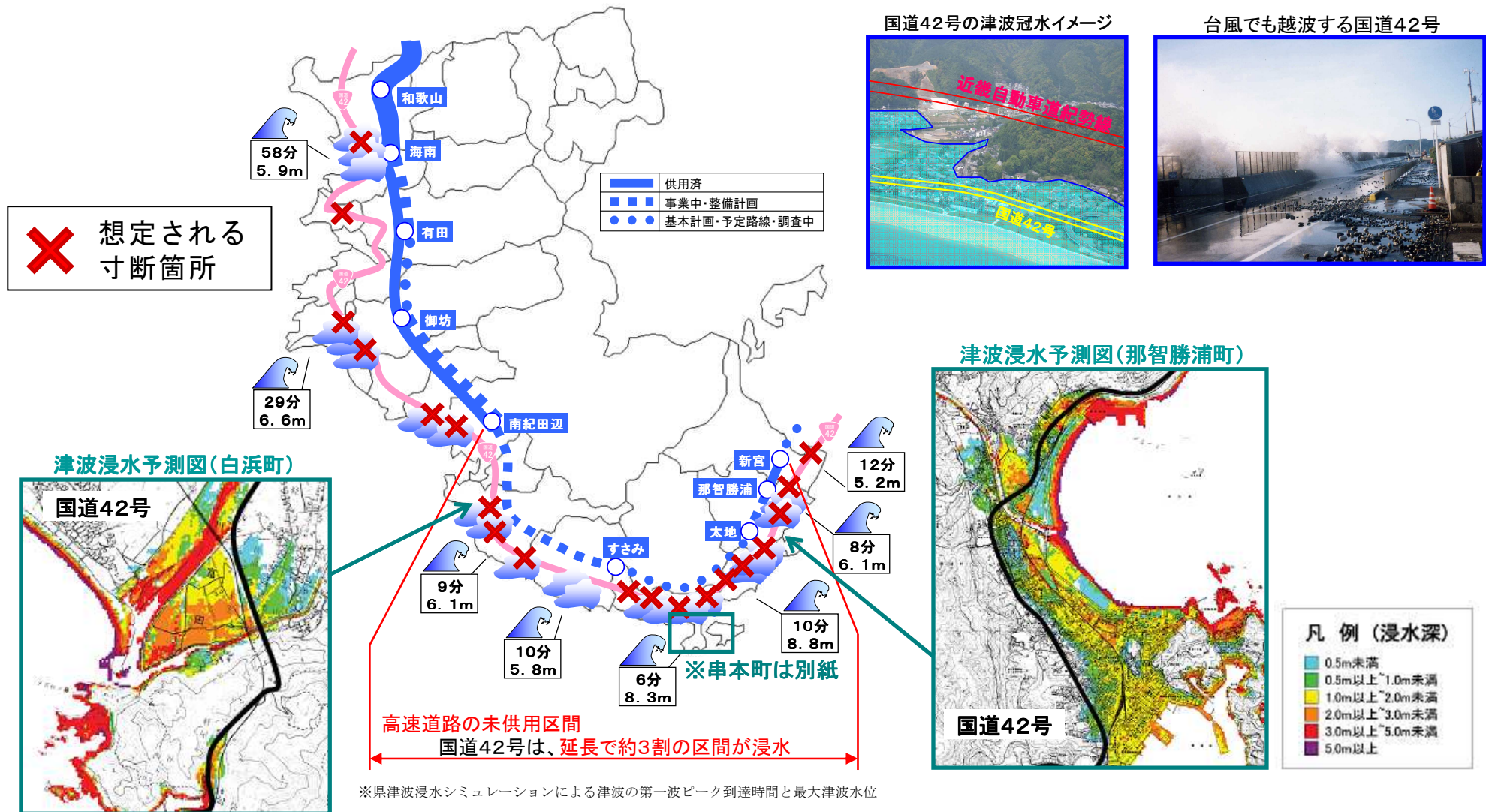
■ 日本は世界の大地震の2割が集中する地震国であり、今後も大規模地震の発生が想定されている



東南海・南海地震に備えた高速道路整備(1)

○東南海・南海地震に備えて、高速道路は「命の道」

- ・ 今後30年以内の発生確率は60～70%
- ・ 津波で寸断される国道42号の代替路となる紀伊半島一周高速道路が必要



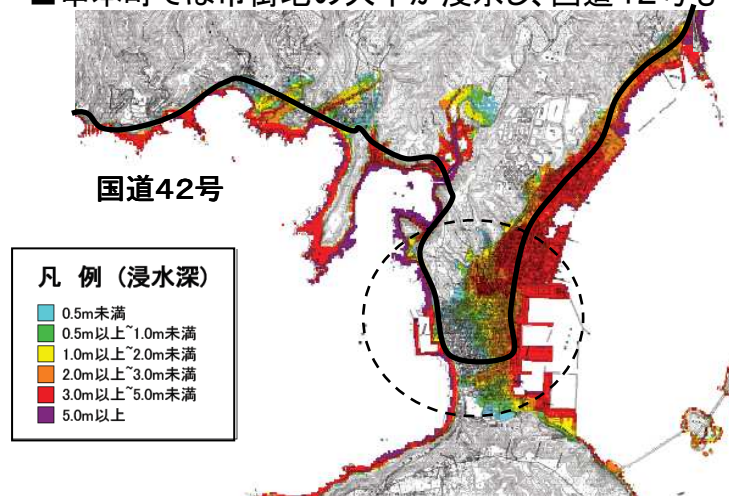
東南海・南海地震に備えた高速道路整備(2)

○串本町では、国道42号の約6割の区間が浸水

- ・津波で沿岸部の集落は陸の孤島になることが懸念
- ・地震・津波災害に備え、国道42号の代替路となる高速道路が必要



■串本町では市街地の大半が浸水し、国道42号も寸断

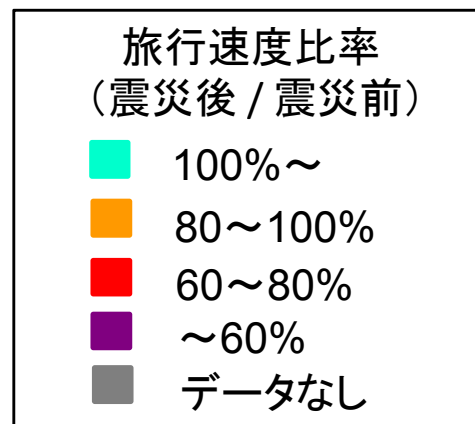
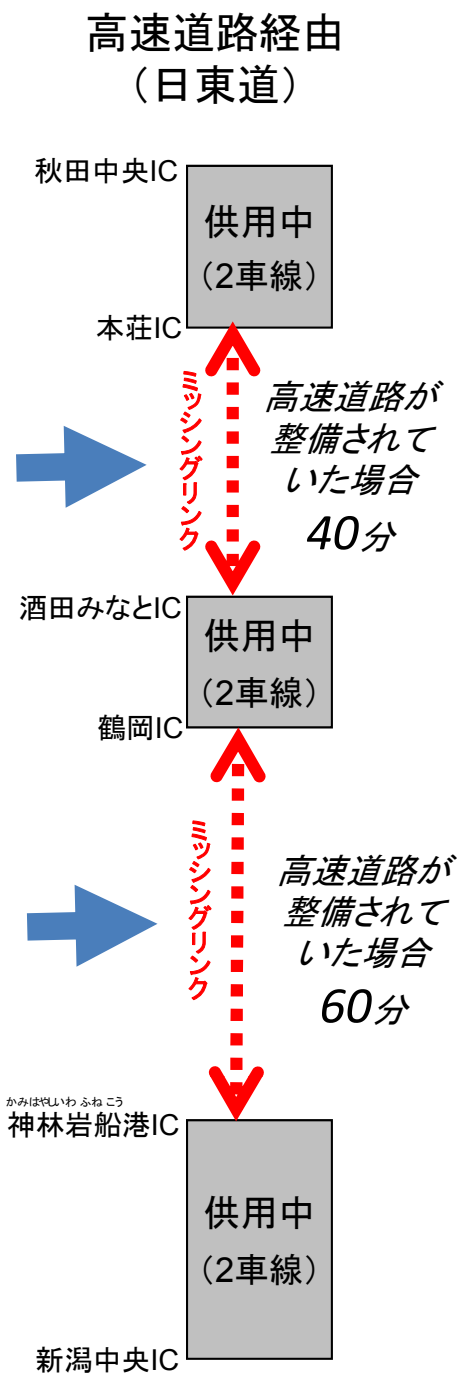
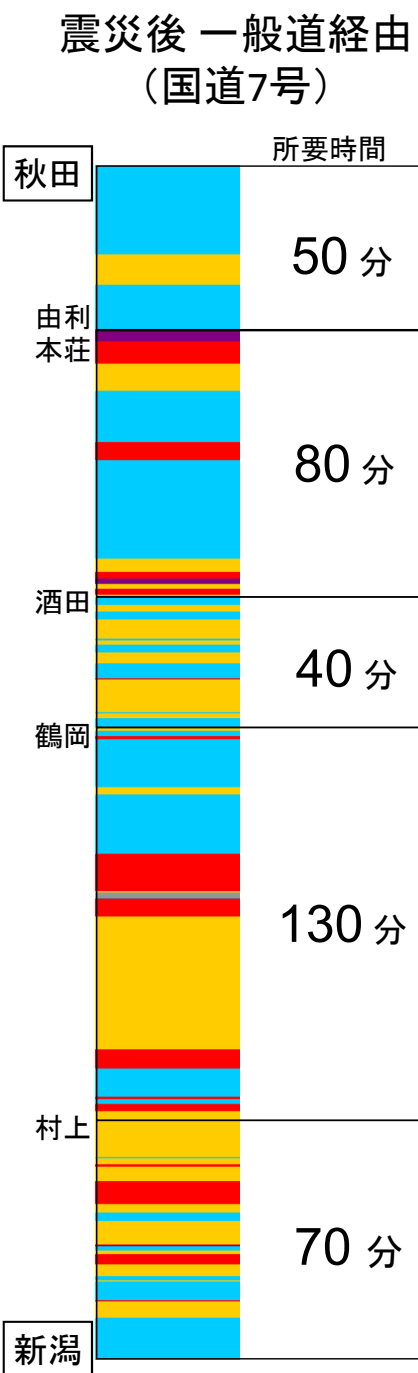


■東海・東南海・南海地震等による被害想定(死者数)

	地震全体	
		うち津波
和歌山県	約 5,000人	約 2,100人
うち串本町	約 800人	約 500人

※出典:和歌山県地震被害想定調査概要(平成18年5月31日)

東日本大震災前後の一般国道（指定区間）旅行速度*の変化（平日昼間）



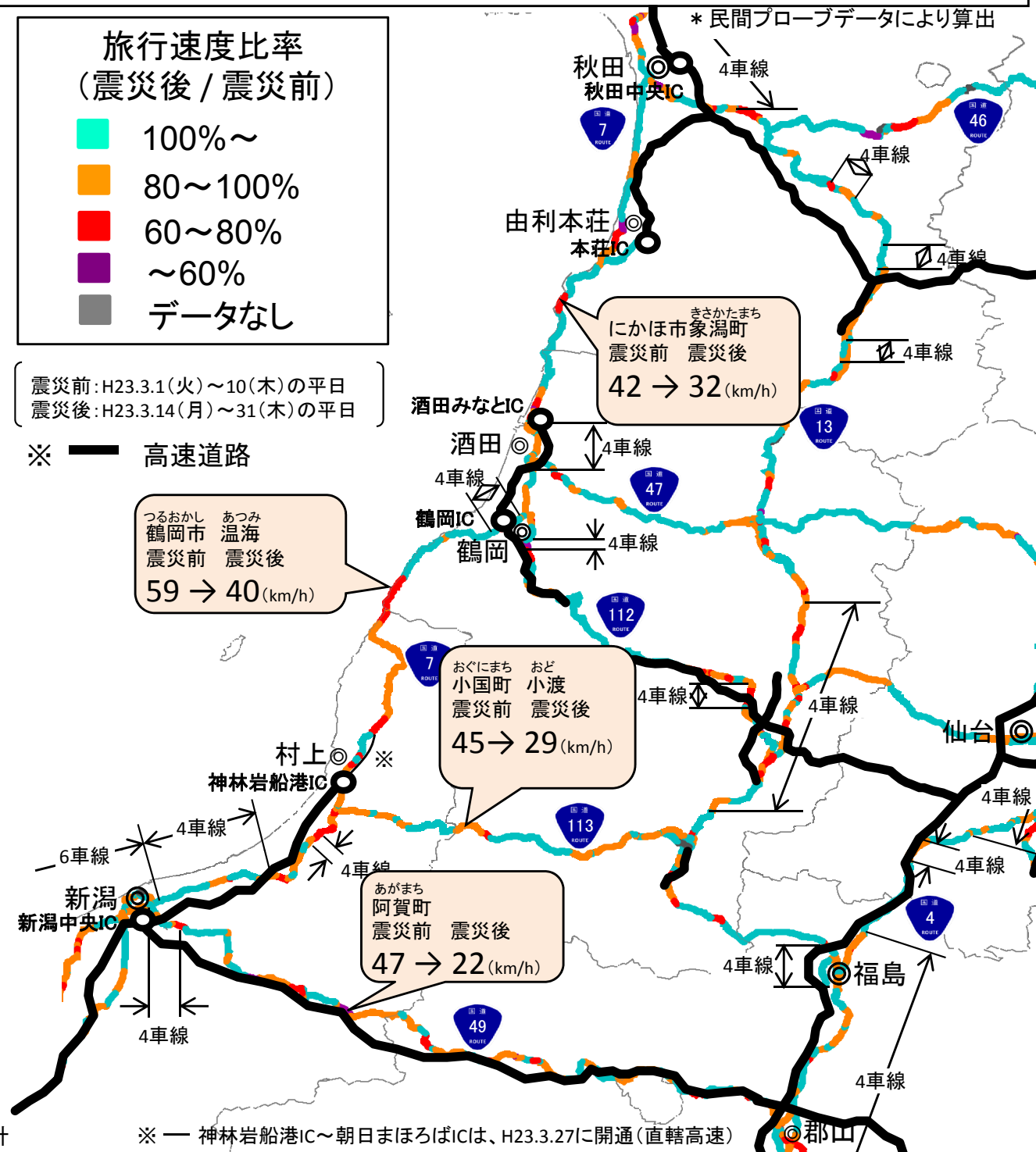
震災前：H23.3.1(火)～10(木)の平日
震災後：H23.3.14(月)～31(木)の平日

※ — 高速道路

つるおかし あつみ
鶴岡市 温海
震災前 震災後
59 → 40 (km/h)

おぐにまち 小国町
震災前 震災後
45→29(km/h)

あがまち
阿賀町
震災前 震災後
47 → 22 (km/h)

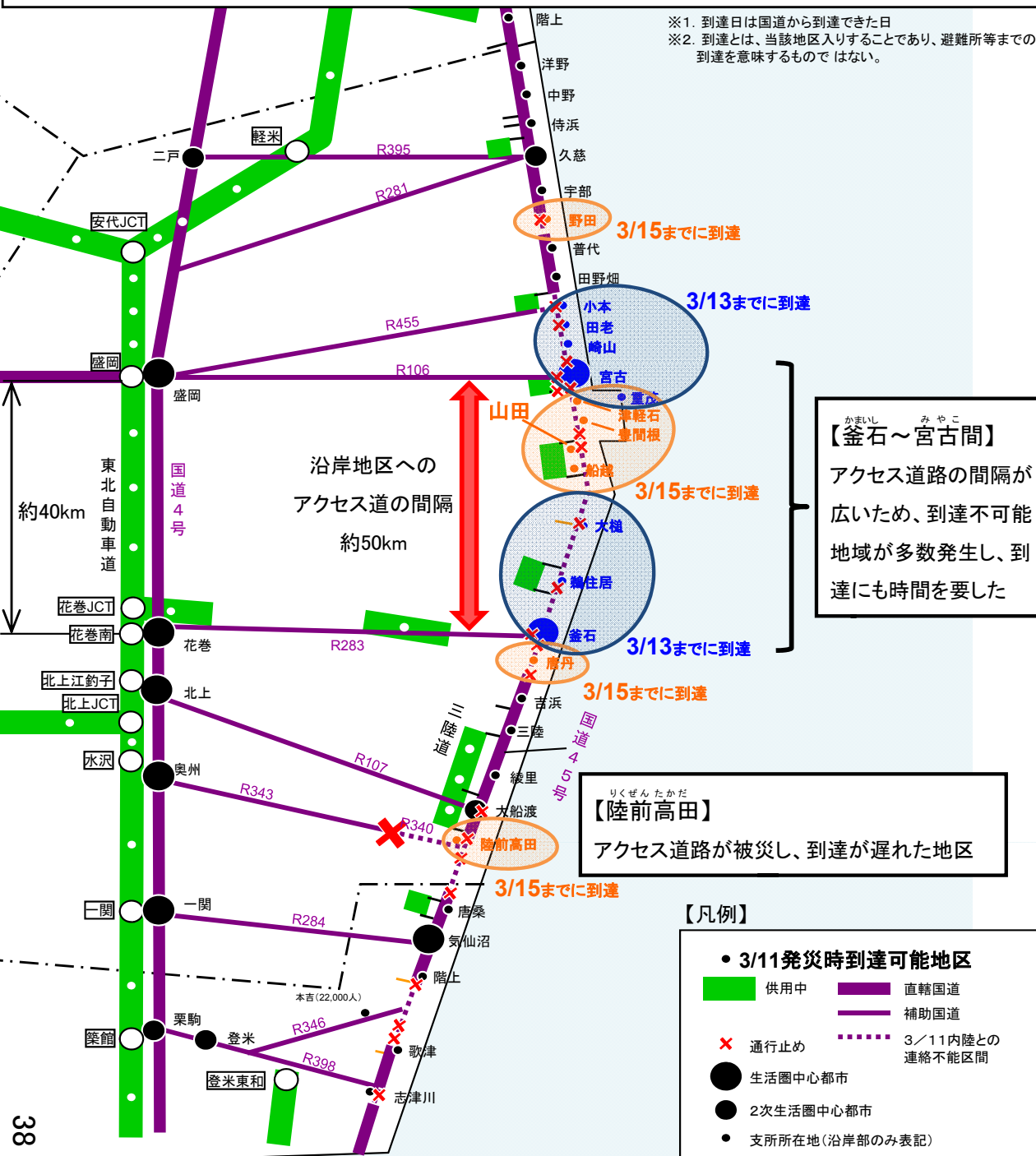


※震災後一般道経由は、民間プローブデータによる実速度から算出
※高速道路経由は、事業中区間のルート等を考慮し、時速80km/hで推計

※ — 神林岩船港IC～朝日まほろばICは、H23.3.27に開通(直轄高速)

東日本大震災後の東北道等から各沿岸地区までの到達状況

■国道45号等の幹線道路の寸断により、到達不可能地区が各所で発生



○ 岩手県山田町の被災者の状況 (3/14)

支給 1日おにぎり1個

東日本巨大地震で、被災地は物資不足が深刻になっている。地震で寸断された道路が多く、発生4日目を迎えた14日も、救援物資を運び込む作業は難航している。被災者は寒さと空腹で疲労の色を一面濃くしており、一部では店から商品を手断り、一部では店から商品を無断で持ち出し、トラブルとなるケースも出てきた。津波で甚大な被害を受けた岩手県山田町では、20人余りの避難所に約700人が身を寄せる。支給で足りるのは、1日1個のおにぎりや、ストロップの灯油も今後、不足が見込まれ、公用車のガソリンも

残り少ない。沼崎喜一町長(68)は「私も今日は食事をとれていない。町は孤立状態。配給を早くお願いしたい」と話した。

1万人が行方不明になっている同県大槌町では約5000人が避難している。県立大槌町の避難所には、県立大槌病院の入院患者約30人もおり、病院は、薬や栄養剤を自衛隊などに要請しているが、まだ届かない。同病院の佐々木勝彦事務局長(52)は「一刻を争う状況。早く助けてほしい」と話した。

3/15 読売新聞

物資不足深刻に

暫定2車線区間について

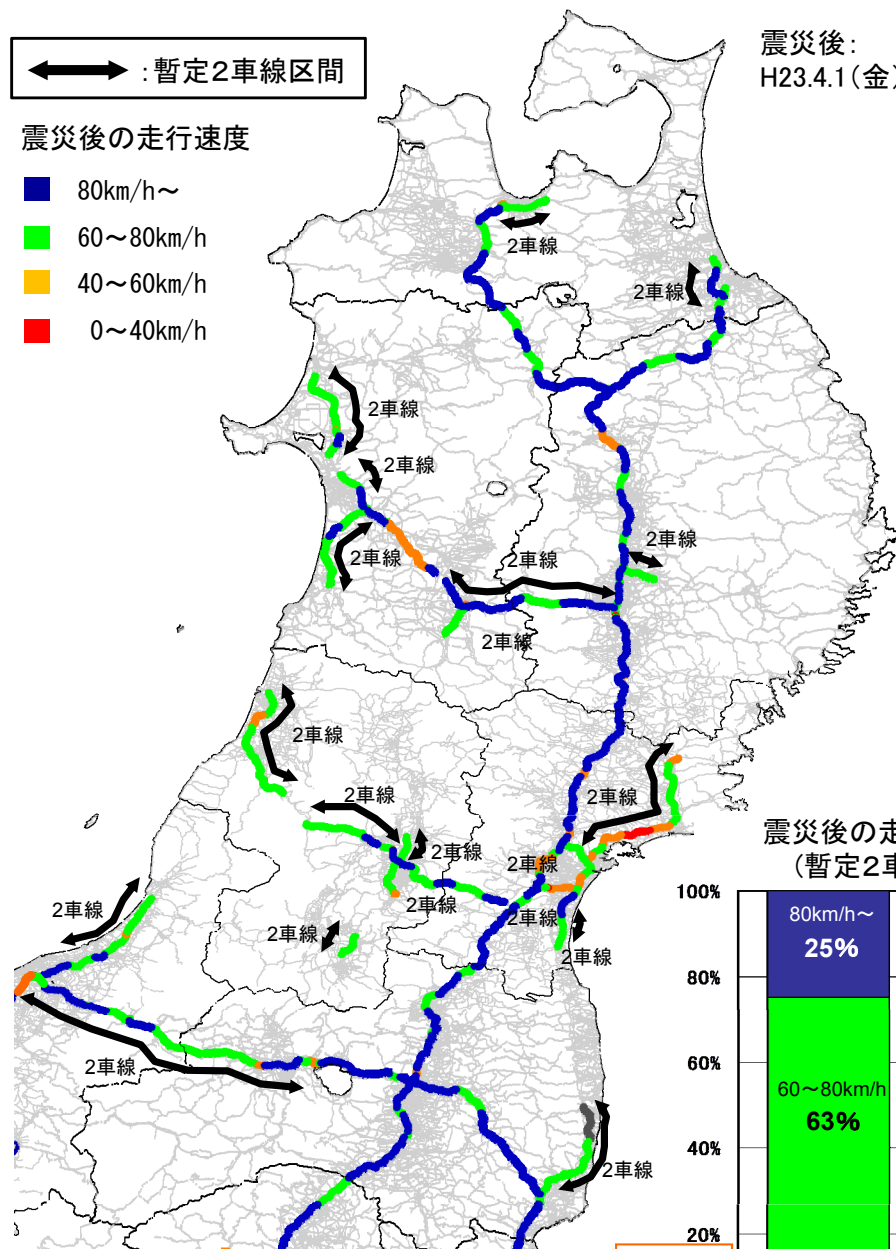
○震災後の暫定2車線と4車線の走行速度

←→ : 暫定2車線区間

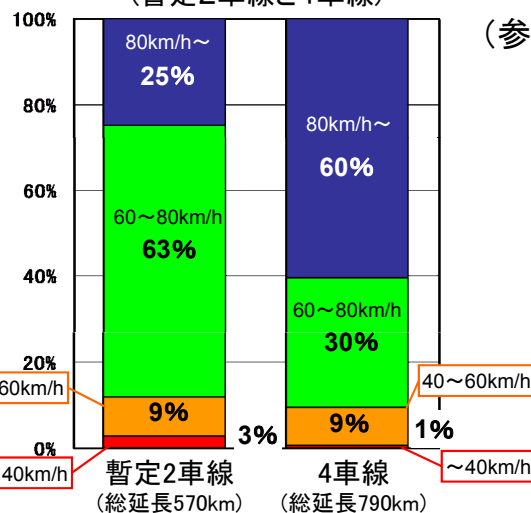
震災後の走行速度

- 80km/h～
- 60～80km/h
- 40～60km/h
- 0～40km/h

震災後:
H23.4.1(金)～28(木)の平日



震災後の走行速度の比較
(暫定2車線と4車線)



※東北自動車道(郡山JCT以北)、日本海東北自動車道(新潟中央IC以北)、磐越自動車道、常磐自動車道(いわきJCT以北)、山形自動車道、東北中央自動車道、青森自動車道、八戸自動車道、釜石自動車道、仙台北部道路、仙台南部道路、仙台東部道路、三陸縦貫自動車道(仙台北IC～登米東和IC)を対象

○震災後の復旧工事における課題

[暫定2車線区間]

仙台北部道路(利府しらかし台～富谷JCT)



- ・交互通行規制とせざるを得ないため、滞留が生じ、輸送効率に影響

東北地方における交互通行規制は、1台の車両の最大停止時間が15分以内になるように行われている

- ・交通への影響から、規制の時間・延長が制限されるため、復旧工事のスピードに影響

[4車線区間]

東北道(福島飯坂～国見)



- ・車線規制で交通流を確保しながら、工事が可能

(参考) 高速道路における死亡事故率の比較(H21)

暫定2車線区間では、一度事故が発生すれば重大事故となる確率が高い

